

## インドネシア国ロンボク，スンバワ島におけるマラリア疫学

神原 廣二<sup>1</sup> 吉永 一未<sup>1</sup> 高木 正洋<sup>1</sup> 前川 芳秀<sup>1</sup> GERUDUG I. K.<sup>2</sup>  
SURYANATHA AAN<sup>3</sup> YAM ISKANDAR<sup>4</sup> DACHLAN YOES P.<sup>5</sup>

長崎大学 熱帯医学研究所<sup>1</sup> Nusa Tenggara Barat Provincial Health Office<sup>2</sup>  
Meninting Health Center<sup>3</sup> Utan Rhee Health Center<sup>4</sup>  
Tropical Disease Center, Airlangga Univ<sup>5</sup>

【目的】選定されたロンボク島，スンバワ島の2地域におけるマラリア流行疫学を明らかにし，地域にふさわしいマラリア・コントロール方法を確立する。

【選定地域】西ロンボク県ムニンティング保健所管轄地域，スンバワ県ウータンリー保健所管轄地域

【方法】管轄地域のすべての小学校低学年児童の脾腫率を調査し地域内のマラリア流行度の差をdusun (subvillage) 別に判定。この結果により定期調査dusun の決定。保健所内に患者検出治療のための巡回チームを編成して定期調査地区以外のdusun を含めて継続的患者検出治療活動を行った。媒介蚊生態調査は主として定期調査対象地区において行われた。

【結果】ムニンティング地域では海岸沿いと森林丘陵地区に異なるマラリア流行が存在する。前者は河川が乾期または小雨期に海への出口が打ち寄せる土砂で閉じられ形成されるラグーン（海水を含む水 - 汽水）に発生するハマダラカ（主として*Anopheles sundaicus*）によって媒介されるもので，古くからその存在は知られていた。観光産業を推進するため州・県による媒介蚊を対象としたコントロール活動が実施されてきたので，一部のdusun を除いて散発的な患者発生に抑えられている。後者は私達の調査で明らかになって来たマラリア流行で10近くのdusun において一定数以上の患者発生が持続している。媒介蚊は山間の谷川（乾期に干上がる小さな流れを含めて），泉などの周りのよどんだ水溜りに発生するハマダラカ（*An. balabacensis*）であることが発見された。dusun により多少の環境の違いがあるため，dusun により流行時期にずれがあり，平均的に見ると流行時期の変動は判然としない。ウータン地区では流行は海岸沿いに限られ，いくつかのdusun においてムニンティング地区よりはるかに高い患者発生を見た。媒介蚊は主として使い捨てられた養魚池（マングローブ林を切り開いて作るため含まれる水は汽水である）に発生するハマダラカ*Anopheles subpictus*であった。山側の1つのdusun で数%の脾腫率を見出し，ムニンティング地域と同じ媒介蚊を危惧したが，問題となるようなハマダラカは検出されず，散発例があるのみで流行の心配はないと判断した。

---

Malaria epidemiology in Lombok and Sumbawa islands, Indonesia

HIROJI KANBARA

Institute of Tropical Medicine, Nagasaki Univ, Nagasaki, Japan